

感染症の病原体を持ち運ぶ蚊の話

1.蚊が運ぶ病原体

蚊やダニなどの昆虫が病原体を運んできて、人間にうつす病気があります。蚊によってうつされる病気のうち、日本で代表的なものには日本脳炎があります。海外では、より多くの病原体が蚊によって運ばれています。たとえば、1999年から2～3年で北米中に広がったウエストナイル脳炎や、東南アジアや中南米で流行しているデング熱やマラリア、あるいはアフリカや南米で流行している黄熱などがあります。

2.どんな蚊が病原体を運ぶのでしょうか

すべての種類の蚊がどんな病原体も運べるのではなく、それぞれの病原体を運べる蚊の種類は決まっています。主な病原体を運ぶ蚊について紹介します。

1) 日本脳炎

日本脳炎では、コガタアカイエカという蚊が病原体を運びます。この蚊は水田などで生息し、主に夜行性に活動します。日本脳炎の発生時期は6～9月です。水田の減少に伴い、蚊の数は減ってきているといわれていますが、県内で行っているタイトラップ法による調査では、一晩で2万匹も捕獲できることがあります。

2) デング熱

デング熱は現在日本では発生していませんが、第二次世界大戦で熱帯に赴任した人が病原体を持ち帰り、国内で流行したことがあります。この病気の病原体はネッタイシマカやヒトスジシマカが運びます。これらの蚊は腹部が白黒の蚊で、昼間に活動することが多いようです。家屋の近所の溜まった水で増えることが知られています。日本ではこれらの蚊に刺されても、デング熱にかかることはないですが、流行地では注意が必要です。

3) ウエストナイル脳炎

北米で流行を続けるウエストナイル脳炎ですが、この病原体を運ぶことができる蚊の種類は多く、米国で行われた調査では、約30種類の蚊から病原体が検出されています。これらの蚊のうち、日本でも生息し、この病原体を運ぶ可能性が高いといわれているものは、アカイエカ、チカイエカ、コガタアカイエカ、ヒトスジシマカ、ヤマトヤブカです。この病気も現在日本で

は流行していませんが、米国での流行状況を見ると、一旦国内に病気が発生した場合、制圧が難しい上、急速に全国に分布する可能性があります。



(写真: 国立感染症情報センターホームページより)

3.おわりに

蚊に刺されると、かゆいだけではなく、場合によっては病気をうつされる可能性があります。夏の野山や海など、蚊が多いところでは、長袖などのなるべく体を覆う衣服を着る、虫除けスプレーを使用するなどの対策を行うことが大切です。また、日本脳炎にはワクチン接種が有効な予防法となります。さらに、海外ではここで紹介した以外にも、マラリアを運ぶハマダラカや、黄熱を運ぶネッタイシマカなど、いろいろな病原体をもっている蚊がいる可能性があるため注意しましょう。

【微生物担当】